

# トランスジェニック社との業務提携で メディカル事業開発を さらに加速化させます

本年2月14日、株式会社トランスジェニック（以下トランスジェニック社）と当社間で業務提携契約を締結し、4月1日から事業を開始することにしました。

この業務提携の背景と意義について当社代表取締役社長 材木正己をご紹介します。



当社代表取締役社長

**材木正己**

当社は、本年最終年度となる中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」の戦略テーマの一つに新たな事業領域拡大をうたっており、従来のファスナー事業、産機事業、制御システム事業に加えて、四つめの柱とすべくメディカル事業へ参入しています。

2020年にメディカル新規事業部を創設し、まずは医療用ライト「フリーレッド」（手術の際にピンポイントで患部に照明を当てることができ、手術の安全面で貢献する医療機器）を開発・販売。昨年2月には京都府、京都府立医科大学、富山大学との共同研究で「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」の開発に成功したことも発表しました。

この「医療用生体内溶解性高純度マグネシウム」は例えていえば「溶けるねじ」。これまでの医療用のねじ（骨折治療用のインプラント）は、回復後にあらためてそれを取り出す抜去手術が必要でしたが、この新規技術の開発が進み実用化となればこの抜去手術が不要となります。これにより、とくに小さな子どもや高齢者への身体的負担が軽減されるなど、医療分野において様々な可能性が期待されています。現在は右図のように臨床試験に向け準備を進めているところであり、技術的には高純度マグネシウム材料の細線化技術を確立するなど、着実

に手順を踏みながら開発を進めているところです。

こういったメディカル分野の開発を加速させるために、今般、トランスジェニック社と業務提携契約を締結しました。

当社とトランスジェニック社との間で現時点において合意している業務提携の内容は① 医療分野情報の共有 ② 両社がもつメディカル分野のアセットの活用による事業領域の拡大 ③ 相互の人的交流を通じたプロフェッショナルの育成の3点で、今後、より具体的なことを両社の間で詰めていく予定です。

トランスジェニック社は、グループの創薬支援プラットフォームを通じて、探索研究から非臨床試験、臨床試験まで幅広いサポートを行い、医薬

**メディカル事業戦略【事業成長戦略】** **NITTOSEIKO**

**世界初！  
医療用生体内溶解性  
高純度マグネシウム**



骨折治療用インプラント



**特徴**

- 99.95%以上の高純度マグネシウムで毒性なく高い安全性
- 生体内で一定期間経過後に溶解をはじめ、その後ゆるやかに長い時間をかけて完全溶解

**進捗状況**

開発 → 臨床試験 → 治験 → 申請 → 承認 → 販売開始

**臨床試験に向け準備中**

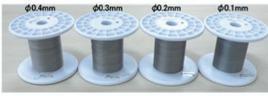
- 生物学的安全性試験の準備
- 動物実験
- 試験に関する手続き

**量産体制に向け準備中**

- 量産用の設備投資
- 品質、性能の安定性確認

**開発の状況**

- 高純度マグネシウム材料の細線化技術を確立



1

37

品、医療機器などの開発を支援している会社です。今回の業務提携によって、当社メディカル事業部門とトランスジェニックグループの創薬支援プラットフォームとの連携強化を図ることができ、また医療用デバイスの共同開発なども含め、両社がもつ医療分野の強みを活かした新たな価値の創造が期待できます。

メディカル事業は人の命や健康と直結する分野

ですので、安全面に対するハードルはより高いものとなります。それらをクリアするための設備投資や知見の集積は当社の他の事業にもプラスの影響を与え、大きなシナジーを生み出すと期待するものです。開発のスピードを加速しつつも、一步一步着実に歩みを進め、お客様満足度120%を達成すべく、期待にしっかり応えてまいりたいと思っています。

## 日東精工グループの「健康経営」

### 「健康経営銘柄2022」

### 「健康経営優良法人2022(ホワイト500)」に 2年連続で選定されました

当社では創業以来「事業活動の原動力は人財」という考えのもと、社員のQOL（生活の質）向上に取り組んでいます。現在は生活習慣病対策、メンタルヘルス、ワークライフバランスの3領域を重要課題(KPI)に設定し、7つの取り組み項目「Nicotto7」のチャレンジを推進中であり、職場での改善策実施に力を入れた結果、メンタルヘルス指標と労働時間が大きく改善しました。このような継続的な健康経営の取り組みの結果、本年3月9日、昨年に続き「健康経営銘柄2022」、「健康経営優良法人2022（ホワイト500）」の認定を受けるに至りました。

### 関連子会社も健康経営優良法人に認定

また当社の関連会社の日東精工SWIMMY株式会社ならびに日東公進株式会社も健康経営優良法人2022（中小規模法人部門）に選定されました。とくに日東公進は中小規模法人部門（今年度12,255法人）の内、評価の高い上位約500法人「ブライト500」に選ばれ、認定されました。

#### ■健康経営銘柄2022とは

経済産業省と東京証券取引所が共同で、東京証券取引所の上場企業のなかから「健康経営」に優れた企業を選定し魅力ある企業として紹介するものです。健康経営に取り組む企業が社会的に評価されることで、「健康経営」の取り組みがさらに促進されることを目指す取り組みです。基本的に認定は、1業種1社と限られているため、認定企業は業種を代表する企業ともいえます。



#### ■健康経営優良法人2022(ホワイト500)とは

健康経営優良法人認定制度は、優良な健康経営に取り組む企業を「見える化」し、「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業」として選定される制度です。認定は、経営者の自覚や法令遵守はもとより、定められた「基準と要件」に基づき審査が行われ、健康経営の実践に向けた基礎的な土台づくりとワークエンゲージメントといった企業の取り組みに基づいて評価されます。また、この評価の結果、上位500法人が健康経営優良法人2022（ホワイト500）として認定されます。



日東精工の社は「我らの信条」には「健康を増進し、よい人づくりを行う」とあります。この理念を本社のみならず国内外の当社グループ企業で共有し、今後、健康経営をより強固なものとして展開してまいります。

## ケーエム精工株式会社および株式会社ピニングを子会社化

当社はP1でも記している通り中期経営計画「NITTOSEIKO Mission “G”」の戦略テーマの一つに事業領域拡大をうたっており、ファスナー事業においてもこれまでの領域を超えた商材の拡充を模索していました。今般、当社とは異なるナットやねじ製品を手がけるケーエム精工と株式譲渡契約を締結するに至りました。ケーエム精工はボルト・ナット、冷間圧造パーツ、各種ファスナーの設計、製造、販売を手がけるメーカーであり、主に自動車業界や建築業界の優良企業や海外企業との取引実績をもち、幅広く安定した顧客基盤を有しています。売上収益は32億9200万円（2021年9月期）。

この株式譲渡によって、日東精工グループの成長を



ケーエム精工 本社工場：大阪府

加速させ企業価値を向上できると考えています。互いの販路活用や、製品開発ならびに製造の協働など事業のシナジー効果を発揮し、お客さまの課題解決に、より幅広くお応えしてまいります。

なお、ケーエム精工は本株式譲渡前に製品の輸出入・販売を行うピニングの全株式を保有したため、本年4月1日からケーエム精工およびピニングが当社の完全子会社となりました。



ケーエム精工 三重工場：三重県

## IR説明会をオンラインで実施しました

当社ではIR情報として第116期（2021年1月1日～12月31日）決算短信や補足資料をホームページ上に掲載するほか、定期的に説明会などを開いて当社の事業内容を多くの方々に深く理解していただけるように努めています。

3月1日にはアナリスト、機関投資家、メディア関係者を対象にしたIR説明会を開催。当社代表取締役社長材木正己がパワーポイントの資料を用いながら、2021年12月期第116期の業績概要と2022年12月期第117期の業績予想、そしてサステナビリティ経営の推進やセグメント別の取り組みなどについて解説いたしました。

説明会資料はこちらから▼



## 「2022国際ロボット展」安川電機、UR社ブースで出展

3月9日から12日まで東京ビッグサイトで「2022国際ロボット展」が開催されました。2年に一度開催される世界最大規模のロボット専門展で、今回は615社、3227小間の過去最大規模となりました。当社は同展に出展されている(株)安川電機およびユニバーサルロボット社展示ブースの一面で「協働ロボット用ねじ締めユニット」を展示していただき、当社の技術力を来場者の方々にアピールしました。



株安川電機展示ブース



ユニバーサルロボット社展示ブース



## 小さな「ことば」の大きな力

# 当

社人財教育本『人生の「ねじ」を巻く77の教え』の企画編集や「受験生応援ゆるみ止めねじプレゼントキャンペーン」「ねじ万華鏡」などの企画を手伝っていた。この頃、蒲田恵里さんが、この度、『小さな「ことば」の大きな力』という書籍を刊行されました。早速、献本いただきましたので目を通しました。

古今東西活躍された女性62人の言葉をピックアップし、その言葉の背景やその人となりを紹介する本ですが、既に知られている方の新しい一面を学べたり、へえ、こんな人がいるんだと発見があったり、とても有益な本。ビジネス書ではありませんが、仕事に通じることもたくさんありましたので、同書のなかからいくつかをご紹介します。

☆

「たったひとつのものさしだけで人を評価してはいけない。まず尊敬からはじめなさい」。

これは国民栄誉賞も受賞した昭和の歌姫、美空ひばりさんの言葉です。雑誌の人生相談コーナーで「義母は要職についている義父の威光をかさに人を見下すところがある。これをあらためてもらうにはどうすればいいか」というお嫁さんの相談に対し、「人にはそれぞれの生き方、それぞれの役回りがある。たったひとつのものさし、自分のものさしだけで人を評価してはいけません。あなた自身がお義母さんを尊敬することからはじめなさい」と答えたものでした。グローバルな時代、日本的なやり方だけが正しいとはかぎらず、いろいろなものさしをもっておくことは大切。そしてなにより相手をリスベクトするというのはビジネスについても同じでしょう。

彼女は11歳で既に天才ピアニストと称されたのですが、作曲家の夫ロベルト・シューマンの才能を見いだし、開花させた音楽家、教育家でもあったのです。この彼女の言葉からも、個性を伸ばすことは大事だが、まずは「核」となる基本をしつかり身につけることがより大切で、独りよがりにならない戒めと読み取ることができるでしょう。

☆

「何かをはじめようとすれば、何もしない奴らが必要邪魔をする。蹴散らして、前へ進め」(新島八重)や「勇敢に進みなさい。そうすればすべてがう

まくゆく」(ジャンヌ・ダルク)という勇ましく元気な言葉もありパワーももらえます。「私のいまの夢は月にいくことです。ジョン・グレンは77歳で宇宙に飛んだのですからできないはずがない」という向井千秋さんの言葉も嬉しい言葉です。人間の年齢はカレンダーが決めているのにすぎない。自分の年齢は自分で決めればいいという言葉に共感を覚えます。私自身は家に帰れば孫たちのおじいちゃん、それなりに齢を重ねていますが、まだまだ新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

連載 48

あやべ ちょっと寄り道

MATA TABI で  
ユニークな旅を!

当社が本社をおく京都府綾部市にある旅行会社が「MATA TABI」です。体験型のユニークなプランを手がけていて、昨年は「地酒×地元木材でつくるマイカップ飲み比べ」が農林水産省主催の「食かけるプロジェクト」(日本の食体験・食ビジネスを集め世界へ発信するプロジェクト)で特別賞を受賞しています。綾部産の杉と桜の2種の木で木製の「MYぐい呑み」をつくり、それをもって地元の造り酒屋でお酒の飲み比べを体験できるものです。先人の知恵を受け継ぎ、また森林整備、つまりSDGsにもつながる体験プランです。

